

歩道や防雪柵等の必要か所を調査 新井柿崎線整備促進議員連盟

県道新井柿崎線整備促進議員連盟は1日の午後、歩道や防雪柵等の整備が必要な場所について現地調査を行いました。これには新潟県上越地域振興局の担当部課の幹部のみならず、市役所都市整備部の幹部のみならずも参加してくださいました。

猛暑でたいへんでしたが、マイクロバスなどにより移動し、7か所で車を降り、道路の整備状況などを確認することが出来ました。

左のイラストの上は道路拡幅工事が進められている高和町内での視察風景、下は吉川区長峰から柿崎区江島新田の防雪柵工事についての説明と要望活動の様子です。

現地調査終了後、上越地域振興局にお



いて、企画調整課、維持管理課などの担当課から、県道整備の基本方向、要望所の整備状況、今後の整備方針について説明していただきました。

この中で、各担当課長は、「橋梁の（幅員拡充などの）整備、路肩の拡幅については、事業中のところを優先している」「青野から森本橋間の道路拡幅は青野地区が終わった段階で検討する」「三和区沖柳と青野間約700mの防雪柵は今年設計をかける」「吉川区長峰と柿崎区江島新田の防雪柵の工事は今年度で終わらせる」などのご意見をいただきました。

新井柿崎線整備促進議員連盟では、この日の調査を踏まえ、10月下旬に県庁に出かけ、県土木部長に要望書を提出することになっています。



【アメリカノウゼンカズラ】ノウゼンカズラ科の落葉ツル植物。北米原産。よく見かけるノウゼンカズラよりも花は小さく赤橙色。花筒は長い。花期は7月～8月です。私が初めてこの花に出合ったのは数年前、柿崎区上下浜の高速道路脇の土手です。花言葉は「華やかな名誉」。8月2日、柿崎区にて撮影しました。

入院受け入れ体制整備など7項目の申し入れ

日本共産党議員団は1日、新型コロナウイルス感染症対策の強化を求めて、市長に対する9回目の申し入れを行いました（写真左下）。

今回は、「このままでは、市内の医療体制と救急体制はひっ迫状況に陥り、通常医療が受けられない事態になることも考えられる。そのような事態に陥らないために、今ここで必要な手立てを思い切って講じる必要がある」として、①入院体制につ

いて、「コロナ患者の受け入れはもちろんのこと、通常医療に制限がかからないよう受入体制を整えるなど、市としてあらゆる手立てを尽くすこと。②医療機関の発熱外来が拡充されるように、独自助成を行うこと。③症状のある人が速やかに検査を受けられるようにする体制強化と、無症状者を対象にした検査実施か所数のさらなる増加を、県当局に強く求めること。④定期的なPCR検査・抗原検査を行う事業所への支援をさらに強めることなど7項目を要請しました。

応対した笹川総務管理部長は、「市長並びに関係部署に伝えて対処すると述べました。」



大島区板山の市道から見た田んぼ風景。田んぼの畔や土手などの草刈りが実に丁寧に行われていてびっくりしました。



はしづめ法一の活動レポート

No.2072 2022.8.7

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七一九回 猛暑の夏祭り

七月の最後の日。五回目の日曜日となった日です。この日も日除けなしで外に長くいるのは危ない感じの猛暑日でした。

私は軽乗用車に乗って大島区のみねあい館前で開催されていた「おおしま夏まつり」に出かけました。

先日の吉川テラスと同じくこちらも三年ぶりの開催です。日頃、なかなか会えない人とも会えるかもしれない、そう思っただけに楽しみにしていました。

この日、気温は三五度前後になりました。私は、三年前に亡くなった従兄が愛用していた、最近、私が譲り受けた菅笠(すげがさ)をかぶって会場に入りました。

一番最初に、私に気づいてくれたのは市役所職員のヨシコさんです。菅笠をとり、その内側に書かれた「文英」という文字を見せたところ、「おおー」という声をあげてくれました。この菅笠には、水戸のご老公の印籠(いんろう)のような「威力」があることを知り、驚きました。

会場のふれあい館前広場では、焼き鳥などの食べ物や遊びの場などとなっているテントがいくつも並び、お客さんが飲食をし、おしゃべりもできるパラソルも多数設置されていました。

まずは腹ごしらえをしようと寄ったのは菅蒲地区のみなさんのテントです。中高生でしようか、大人に混じって若い人たちが一生懸命働いている姿は見ている方も気持ちがいいですね。私は、ここで焼きそばを買い、西側に設置してある休憩用テントの下で、休むことにしました。

そのテントを選んだのは、石橋のHさんらしき人が二人の男性と一緒にくつろいでおられたからです。「Hさん、写真は昔から撮っていたがですか」と声をかけると、「いや、私はやっていません」と言われまして。「あれだけ素敵な風景写真などを撮っておられるのに、おかしいなあ」と思いました。

そのうちに板山の従弟夫婦が、私のところに来ておしゃべりが弾みました。

そして従弟の連れ合いのチエコさんが、「Hさんらしき人」に向かって、「ヨウコさんお元気ですか」と訊(き)くと、従弟が慌てて、「なして、奥さん、何年も前に亡くなったねか」と言ったのです。

その瞬間、私の勘違いがハッキリしました。どうもおかしいと思っていたら、数年前にお連れ合いを亡くされた大工のTさんだったのです。チエコさんも間違えるくらい、Tさんは顔立ちといい、真っ白な髪といい、Hさんこそつくりでした。

私もTさんのお連れ合いはよく知っていて、ご自宅で何度かお茶をご馳走になったことがありました。勘違いしたおかげで、亡くなったお連れ合いのお茶飲みで、春日山のSさんたちのことや私が書いた「春よ来い」のことをたづねたり話したことを思い出しました。

短い時間でしたが、会場では大平のーさん、Tさんなども再会し、野の花や昔の懐かしい出来事を話すことが出来ました。

この日は、商工会のテントでイカ焼きのパックを買い求めた後、大島区出身の市役所職員さんたちがポップコーンや綿飴を販売していたテントにも寄り、挨拶しました。ここでも菅笠をとり、「文英」の文字が見えるようにすると、ヨシコさんが、「ほら、おまんたも、フミエイさんの世話になったがろ」と言ってくれました。そのひと言だけで、親しみのある雰囲気が出されました。うれしかったですね。

夏まつりには地元に住んでいる人たちがけでなく、外に転出した人たちやその子どもたちも大勢参加していました。そして、すでに亡くなっている人たちも盛り上げに一役買ってくれました。だから、いいんです、夏まつりは。

通年観光観光プロジェクトなどについて意見交換

通年・広域観光推進特別委員会は7月26日、勉強会を行い、市から「上越市観光交流ビジョンと通年観光について」について説明を受け、その後、意見交換しました。

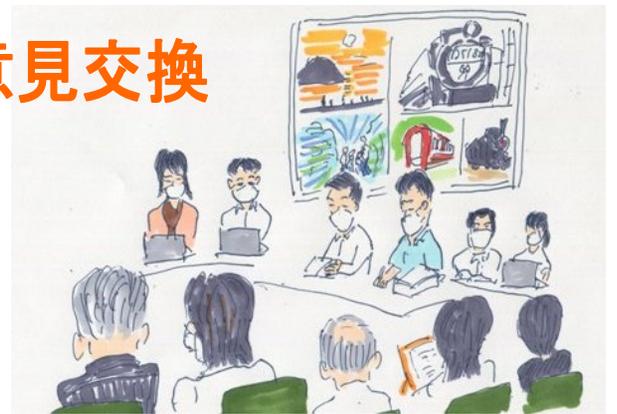
市が説明した「上越市観光交流ビジョンと通年観光について」は、①上越市の観光の動向、②上越市の観光交流ビジョン、③上越市の観光の取組、④通年観光プロジェクト、の4部構成です。新型コロナが流行してからの観光入込客数(年間)などの最新の状況や上越市の国別外国人宿泊者数など初めて知るデータに驚きました。また、十返舎一九の描いたものの中には、有間川など市内のいくつかが紹介されていることも初めて知りました。

注目の「通年観光プロジェクト」に関しては、これまでの季節型観光から歴史文化を生かした通年観光を目指すとして、高田エリア、直江津エリア、春日山エリアを集中的に整備する方針であることを明らかにしました。

意見交換では、「根本的に通年観

光をやらうと思っているのか」といったそもそも論からはじまり、高田、直江津、春日山の3つのエリアを集中的に整備することなどをめぐって、「3つのエリアについては、具体的な計画を今後作っていくのか」「3エリアとは別に安塚、鷲の浜などにもスポットを当てない」と上越全体に磨きがかかっていかないのではないか」などの発言が相次ぎました。

産業観光交流部の幹部は、「上越が持っているいろんな素材をまだ活かしていきたくない。年間を通じて観光客に楽しんでもらえるまちづくりをしていきたい。最初のひと転がりには支援するが、できるだけ税金をつぎこまなくても発展できる仕組みになればいいなと思っている」「アクションプラン策定については、まだ決めていないが、3つのエリアで皆さんと相談していきたい」「選択と集中が必要だ。少し磨くと価値が出てくる、そこを先行させる」などと答えていました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月27日(水)	8月3日(水)
上越南消防署	0.047	0.057
上越北消防署	0.040	0.050
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.047	0.050
頸南消防署	0.067	0.063
東頸消防署	0.047	0.040
名立分遣所	0.060	0.050
高士分遣所	0.053	0.050